

総合診療医、久保賢介ドクターの新たななるチャレンジ!

ヒーリングパワーを使った ホリスティック医療

飛騨高山の自然に囲まれたホリスティック医療施設「ナチュラルクリニック21」。
このクリニックの院長である久保賢介ドクターは、患者のガン治療に新たな試みとして
スピリチュアル・ヒーリングを取り入れていきます。西洋医学の医師でありながら、
ヒーリングの導入へ踏み切った自身の闘病体験による「気づき」と、
それによってスタートしたホリスティックな医療をご紹介します。

取材協力・写真提供◎ナチュラルクリニック21 取材・文◎町田光



院内にある自由室にて、入院患者にスピリチュアル・ヒーリングを施術する久保先生。

病は気づきのチャンス 病が重いほど深い気づきがある

「気づきのチャンスがもたらえてラッキーですね。」

これからガンと向き合うことになる患者が訪れる度、久保賢介先生はまずこう語りかけるのだそう。

飛騨高山の雄大な自然に囲まれた医療施設「ナチュラルクリニック21」。こゝはガンをはじめとする難病を自然の中で癒す、ホリスティックな治療法を実践するクリニックです。

「病は気づきを得られるチャンスです。特に入院治療など長期に渡る場合や重病であるほど気づきの質も深くなる」と語る院長の久保先生。

これは決して患者への気休めなどではなく、久保先生自身が「自分の闘病体験から導いたもの」なのだそう。

「僕は高校時代に喘息が突然発病し、入

退院や休学を繰り返し、やっと20歳で高校を卒業できました。

そのうちの半年間は誤診によって結核の疑いをかけられ、結核病棟へも入れられました。結核病棟は自由に外を出歩くことも人と会うこともできない、まさに牢獄です。しかし今振り返れば、この半年が自分にとって『大きなターニングポイント』だったのです。

結核病棟だけに、人の生死を多く垣間見ることになった久保先生。それをきっかけに「人は死後どうなるのか?」「そもそも人の魂や本質とは?」と、スピリチュアルな世界への関心が10代の久保先生の心に大きく芽生えます。

「入院中に精神世界に関する本を読み漁り、人間は内なる『魂』こそが本質的な存在なのだ、と漠然と理解できたのです。もし、この時に普通の高校生として過ごしていたら、もしかすると今の自分はいなかったのかもしれない。」

誤診が招いた半年間ですが、この時間はきつと、久保先生に内在していた「霊性の探求者」としての使命を開眼させるために用意されたものだったのでしよう。

「本当の気づきというのは、同時に『縁』をも引き寄せるものだと思います。僕の場合、スピリチュアルな世界への関心の芽生えと同時に、スピリチュアル・ヒーリングの世界を知る人物との出会いがありました。」

その後その人を通し、魂の本質の世界や、西洋医療とは別のヒーリングのパワーを体験しました。そして自分もそのヒーリングを学び、他の人へ奉仕をしたいなと思うようになったのです。」

瞑想中のインスピレーションで 新たな医学を実践する場を開業

闘病で得た気づきは、「体、心、魂のすべての面から人をトータルに癒せる医師になりたい」という夢に姿を変えて、久保先生を導きます。

そして高校を卒業後、内科・外科等すべての診療科を研修する総合診療医の育成カリキュラムを持つ佐賀医科大学へ進学。「総合診療医を選んだのも、患者の全身を診られるようになったからです。当時はまだホリスティック医療という言葉はありませんでしたが、病気は部分からではなく、全身のバランスで診る必要がある、と直感していたのです。」

医師、科学者にして神秘探求家。現在の久保先生を端的に表現するなら、こんな言葉がピッタリかもしれません。

いくつかの病院でキャリアを磨き、ガンやアレルギーの免疫治療を中心とした「免疫バランス」が医師としてのライフワークとなった久保先生は、プライベートでは瞑想やスピリチュアル・ヒーリン

神秘探求家としての久保先生

医師であり神秘探求家である久保先生。かつて瞑想中に「宇宙と一体化する至高の世界」を知り、現在は神秘と医学の融合を目指している。



朝の瞑想会の様子。患者たちに「気づきと癒し」をもたらすことを目的としている。



週末や朝、夜の診察時間外を使って希望する患者さんへのスピリチュアル・ヒーリングが施術される。



久保先生が奄美大島で写した写真には、「火の鳥」のようなエネルギー体が写っていた。



時間ができると「位山」を拝める礼拝所のある丘に登り、「祈り」を捧げるのが久保先生のヒーリングパワー充電法。



くぼけんすけ◎1957年生まれ。北九州市出身。昭和61年、佐賀医科大学卒業。佐賀医科大学内科・飯塚病院内科等を経て、次世代の医療を目指して平成13年10月、飛騨高山に「ナチュラルクリニック21」を開業。ガンの免疫治療は15年以上の経験がある。患者にとっての癒しとは何かを常に考え、追求する。医師でありながら、医師の枠にとられない斬新な治療を取り入れている。自然保護活動も行い、「日本熊森協会」の岐阜支部の一員。自ら畑仕事も行い、CO2削減と引きこもり者の社会復帰を目指すNPOを設立準備中。

グを実践し、その力を深めていたのです。そして2000年、瞑想中に「大いなる宇宙との一体化」を体験し、メッセージを受け取ります。「それは、21世紀にふさわしい医療を行う入院施設のある医療機関を急いで作る

ねばならない、というものでした」。

一念発起した久保先生は、翌年に21世紀の医学を目指す「ナチュラルクリニック21」を開業します。

久保先生は現在、2つのスキルを駆使して患者と向き合っています。ひとつはホリスティックな医学を駆使する医師。そしてもうひとつが、スピリチュアルなエネルギーを活用するヒーラーとしての癒しです。久保先生はガンなどで入院する患者の希望者にはスピリチュアル・ヒーリングを無償で施します。

「多くの病はストレスや、摂食する食事などが原因で起こりますが、その根本に

は免疫のアンバランスがあります。こうした病に対し、西洋医学が得意とする対処療法が有効なケースも多くあります。しかし一方で、ガンなどの難病はもつと免疫バランスに働きかける治療法が必要なのです。ではその免疫バランスを修正するはどうしたらよいのか？

そう考えた時にたどり着くのは、私たちの心の前向きさ、平安と喜び、そしてもつと奥のスピリチュアルなエネルギーの活性化がもつとも有効でパワフルなものに違いないと僕は考えています」。

スピリチュアル・ヒーリングだけで「ガンを治す」新たな試み

そんな久保先生は現在、クリニックに入院中のあるガン患者とこれまでの医療にはない画期的な試みにチャレンジをしています。

それは久保先生のスピリチュアル・ヒーリングのパワーと、瞑想会などを通じた患者自身の心の気づきの相乗効果によって「ガンを治す」という治療です。

70代の入院患者、Aさんは、胃ガンの摘出手術をすでに行ったものの、ガンが腹部に残り、食事が満足に食べられず、体力が低下。抗癌剤も満足に使えないという状態で、クリニックに入院しました。「本人の希望でビタミンCの大量投与など代替治療法も試みました。しかし病巣の状態を示すマーカー値は悪化傾向を示しました。

そこでいったんそれらの治療を止めて、スピリチュアル・ヒーリングだけに専念してみようとAさんに提案しました」。

こう久保先生が決断したのは、もちろん理由がありました。

久保先生はAさんに対し、代替治療法を試みながらも同時に毎晩、スピリチュアル・ヒーリングも行いました。そのヒーリングの結果、「Aさんの健康状態は必ず良くなる」という確信が久保先生の心に生まれていたのです。

Aさんがスピリチュアル・ヒーリングを受けた感想をこう語ります。

「最初はわかりませんでした。受けているうちに、先生がエネルギーを送っている場所が暖かく感じられるようになりました。体調も良くなり、食欲も湧くようになりました。今はとても健康になった気分です」。

と笑うAさんは、筆者から見てもまさに健康体そのもの。

さて、気になるAさんの状態ですが、スピリチュアル・ヒーリングだけに専念してからは、「マーカー値が下がり始めており、改善傾向と言える状態」だと久保先生は診断します。

「スピリチュアル・ヒーリングだけに専念してまだほんの3カ月くらいです。ですから予断は許されませんが、このまま続けて完治を目指したい」と意気込みを語る久保先生。

また、50代のBさんは睥ガンの末期です。手術を受けたのですがすでに進行している状態でクリニックに入院しました。「抗癌剤も副作用が強く中止となり、現在はスピリチュアル・ヒーリングを中心にしています。黄疸が改善し、マーカー値が低下してきています」と、こちらの症例でも効果が現れているようです。

ホリスティック医療を実践する「ナチュラルクリニック21」

18床の入院施設を備えたホリスティック医療施設。難病の完治を目指し、西洋医学、東洋医学、各種代替療法など様々な診療方法が導入され、患者自身が治療法を自由に選べるように配慮されている。西洋医療設備ではCT、超音波、内視鏡電子カルテ、画像ファイリングシステムなど最新の設備が整えられ、各種の生検、大腸のポリープ切除なども行われ、迅速で的確な診断と治療を心がけている。ガン治療にも有効な心理療法であるサイモントン療法も導入され、アトピーに効果のある「マコモ風呂」では多くの重症症例を完治させている。



病院のすぐ裏手には広大な農地が広がり、近隣は山々に囲まれている。

CTなどの最先端機器が並ぶ診察室。久保先生の多くの時間は、こうした機器を駆使する白衣の医師としての治療活動にあてられている。



春先からは、治療の一環として患者さんたちと一緒に裏手の畑で農作物を育てる。



栄養バランスを考えた「食事療法」によって作られる入院病棟の朝食。取材スタッフの感想は「とにかく、おいしい!」。



外来、入院病棟、共に設置された本棚には、スピリチュアル&精神世界の本がぎっしり。



お問い合わせ
ナチュラルクリニック21
岐阜県高山市下林517-6
TEL 0577-37-7064
<http://www.nc-21.net/>

ス。ピリチュアルなパワーには
医療に應用できる無限の可能性がある。
それを追求したいのです。

スピリチュアル・ヒーリングは
大きな可能性を秘めた治療法

では、久保先生のスピリチュアル・ヒーリングはどのようなものなのでしょう。「楽な格好をしてもらい、私は全身に手をかざしていきます。手をかざすと相手の不調箇所などが手に感じられます。」

ヒーリングを行う時、私自身はただ、パイプ役に徹します。宇宙からの大いなるエネルギーが私を通して患者に入るというイメージを作るだけです。

私は『無』になりますが、ヒーリング中に直感的に何かを感じた場合は、それを患者には伝えています。

不調箇所は西洋医師としての診断とマッチしている場合もあれば、そうでない場合もある。西洋医学の診断ではわからない不調箇所をスピリチュアル・ヒーリングで癒しているのかもしれない。

長年、スピリチュアル・ヒーリングを実践してきた久保先生ですが、自身の体調を崩したことなどは一切ないそうです。「ヒーリングすることが自分の喜びになっているからでしょう」と笑う久保先生。

「ただ、近隣のパワースポットで定期的な充電は行うようにしています」

と言う久保先生の充電場所は、飛騨高山のパワースポット「位山」です。「定期的に山の自然に触れ、神社などで祈る。また、年に1回はハワイの大自然からパワーを授かるようにしています」。

それにしてもなぜ、最先端医療設備を備えた医療環境を整える一方で、スピリチュアル・ヒーリングの可能性にこだわっているのでしょうか？

「人間は魂が本質で、大いなる宇宙や大自然とも繋がれる霊性を持った存在です。それなのに、そこから得られるパワーを活かさない、という発想の方がおかしいのです。」

ホリスティック治療院の院長として、『これは効く』というものはなんでも試しています。しかしひとつ言えるのは、単独で完璧な治療法というのはまだ存在していないということ。そこで様々な治療法で相補って患者の病気を『とにかく治す』ことが医師の使命です。

そしてスピリチュアル・ヒーリングも、可能性を秘めた治療法のひとつです。

欧米では医師が手当て療法を実践するケースはすでに見受けられます。しかし日本の医療施設は、「あまりにもスピリチュアル・ヒーリングの可能性を無視しすぎている」と久保先生は訴えます。

「僕の今の夢は、スピリチュアル・ヒーリングで、しっかりと治療実績を残し、このヒーリングを医師たちの間に広めたいと思っています。そして本当の意味での医療革新をしたいと考えているのです。」

人間の心や魂には、秘めたるエネルギーと可能性がある。それを目覚めさせることは、今後の人類や地球に山積した問題の解決の糸口なると考えています」。